

編集・発行 海老名市役所 市長室  
〒243-0492 神奈川県海老名市勝瀬175番地の1  
☎046(231)2111(代) ☎046(233)9118  
URL http://www.city.ebina.kanagawa.jp

「広報えびな」は、市シルバー人材センターの会員が各家庭へ直接配布しています。お手元に届かない場合はご連絡ください。  
☎ 同センター (☎292・0303)

世帯と人口

(2月1日現在)  
世帯 48,025  
人口 124,908人  
男 63,591人  
女 61,317人

☎ 行政経営課  
(☎235・4698=直通)

# えびな 広報



▲表彰状を授与される蒔田淳一さん(=小説部門・大賞)

# えびな・いちご文学賞の入賞者決定

## くみずみずしい感性を発掘

市では、今年度のテーマ「健康・スポーツ・文化振興の年」の事業として、「えびな・いちご文学賞」を創設し、このたび、小説・詩部門の入賞者が決定しました。小説部門では、蒔田淳一さん(まきた・じゅんいち)上今泉在住・48歳)の「甲蔵さんの川」、詩部門では、広田栄美さん(ひろた・えみ)横浜市在住・41歳の「葎一会(いちごいちえ)」がそれぞれ大賞に選ばれ、2月9日に市役所で、入賞者全員の授賞式が行われました。

海老名を素材に  
全県から245作品の応募

この文学賞は、文化振興の視点から、県内の多くの文学志望者たちに、未来を見据えた、新鮮でみずみずしい「いちご」のような文学作品発表の場を作ることを目的に創設されたもの。昨年6月1日から10月31日まで、県内全域を対象に、小説と詩の2部門で作品を募集しました。

作品の素材は市の特産物・ゆかりの場所などで、今回は「いちご」「相模川」「相模国分寺」がテーマ。その結果、海老名市をはじめ県内ほぼ全域から、小説部門148・詩部門97、計245の感性豊かな作品が集まりました。年齢は9歳から88歳までと幅広い世代から応募がありました。

選考のポイントは  
「いきいきとした人間模様」

作品の選考は、小説部門は元文藝春秋編集長・岡崎満義氏、詩部門は詩人・清水哲男氏により行われました。小説部門・岡崎氏は、「登場人物がいきいきとしているか」「読む者の胸を打つ力が強いかな」などをポイントに選考。大賞の「甲蔵さんの川」については、鮎の友釣り名人・甲蔵さんを主体とし、相模川の清らかな描写とその人間模様が伝わる内容

で、「あたたかさが全体にあり、心地よく読めた。とにかく文章がいい」と評しています。

一方、詩部門の清水氏は、「レベルの高い作品が多く、選考に苦労した。大賞の『葎一会(いちごいちえ)』は、海老名の『いちご』をテーマに、そのみずみずしさの描写だけでなく、他の作品にはない斬新な発想に基づく絶妙なフレーズが用いられていた点が、大賞に選んだ大きな理由の一つ」と話しています。

### 大賞受賞者 喜びの声



◆小説部門・蒔田さん(右写真)

「今回大賞を受賞し、大変驚いています。昔から小説などを読むことは好きでしたが、自分で書いて文学賞に応募するのは初めてです。」

もともと釣りが趣味だったので、今回相模川での釣りを題材にした作品を書きました。殺伐とした家族関係の二ユースが続く中、主人公を取り巻く人間関係を見て、思いやりや気遣いを持った家族との交流を読みとってもらえたらいいなと思います。

### えびな・いちご文学賞 入賞作品集配布のお知らせ

4月2日(日)から、指導室窓口または郵送で、入賞作品集の配布を行います(一人1部のみ)。

郵送希望の方は、A4サイズ(29.7㍻×21㍻)が折らずに入る封筒(郵便番号・住所・氏名・「冊子小包」と明記し、180円切手を貼付)を同封の上、〒243-0492勝瀬175-1指導室「いちご文学賞」係まで郵送してください。

入賞者全員の氏名・作品名と、大賞の2作品(全文)、選評(抜粋)を特別折り込み「特集えびな・いちご文学賞」で紹介しています。

☎ 指導室  
(☎235・4919)

◆詩部門・広田さん(左写真)

「普段から日常生活のちよつとした言葉をメモにとっており、その中の娘の一言から、この詩を思いつきました。」

ここ最近では短歌を詠むこともしていますが、短歌の五・七・五・七・七で収まらない言葉がたくさん出てきたので、そうしたものを詩で表現しました。何かにこだわらず、その時その時に出会った言葉を形にできればと思っています。今回大賞に選ばれて、とてもうれしいです。」

